

速報

さんのうづかこふん

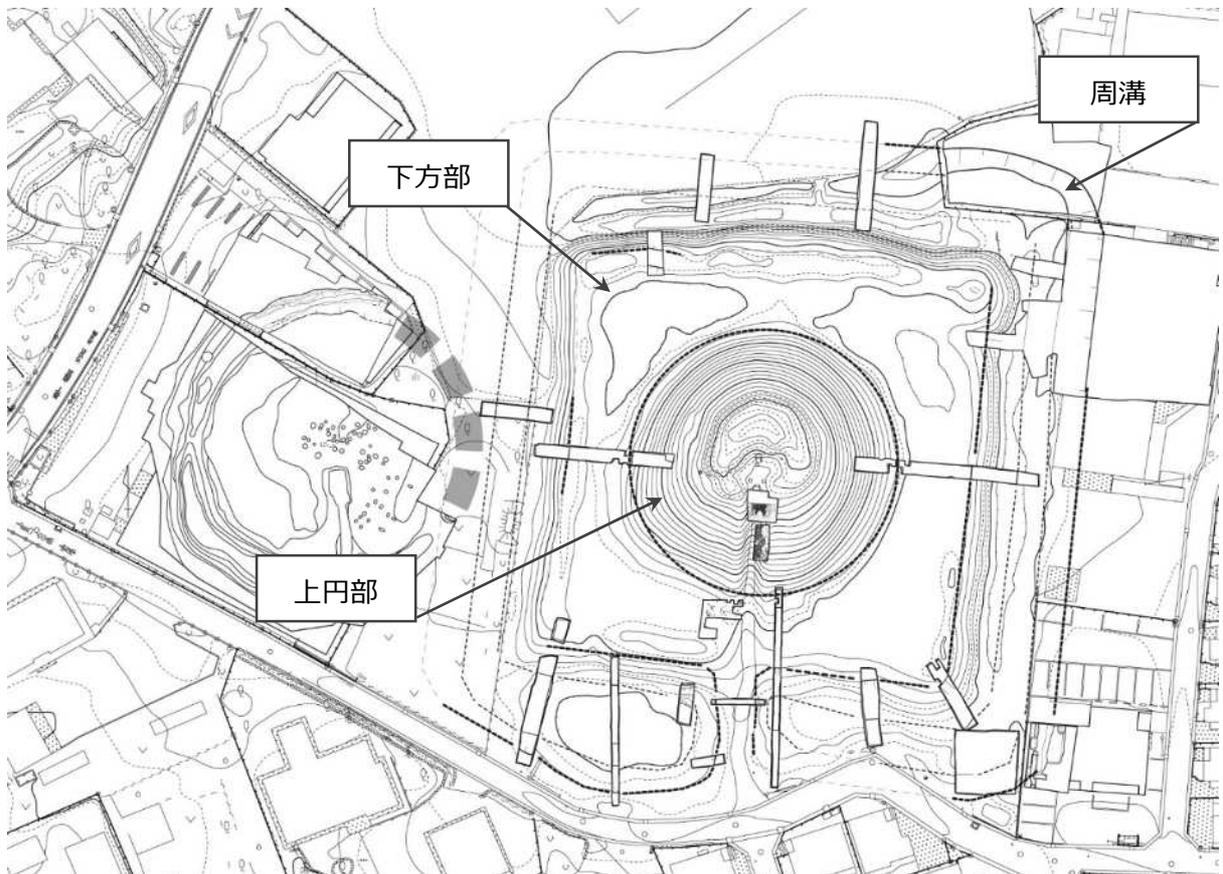
山王塚古墳 国指定史跡へ!!

国の文化審議会は、令和4年12月16日(金)に、川越市指定史跡「山王塚古墳」(川越市豊田町三丁目及び大塚一丁目)を国の史跡に指定するよう、文部科学大臣に答申しました。正式には、後日行われる官報告示を経て指定されます。これにより、市内の国指定史跡は河越館跡かわごえやかたあと(昭和59年12月6日



山王塚古墳 遠景(南から)

指定；川越市大字上戸)に続き2件目です。



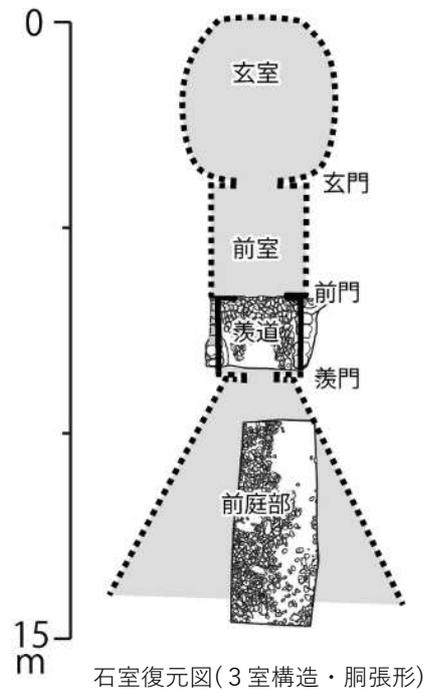
山王塚古墳と周辺地形

◇ 山王塚古墳とは？

山王塚古墳は武蔵野台地北端の、西側縁辺に立地する上円下方墳です。上円部の直径 37m、下方部一辺 69m、墳丘盛土の高さ 5m、周溝を含めた規模一辺約 90m で、上円下方墳としては日本一の大きさです（今回の指定面積は 8,409.43 m²）。7 世紀第 3 四半期（飛鳥時代）に築造されました。

古墳は旧地表面を整地した後に、上円部、下方部・周溝の順で成形されています。また、墳丘は関東ロームを叩き締めて構築されていました。埋葬主体は南に開口する奥行き 9m の 3 室構造の横穴式石室にハの字状に開く長さ 6m の前庭部が伴うもので、良質な関東ロームを版築工法で叩き締めて構築した高さ 1.8m の基壇状の盛土上に構築されています。

墳丘規模が大きいことや石室の構造は武蔵の地域的特徴を示す反面、上円下方墳という形態や版築工法、基壇状の盛土は畿内や東アジアとの関係を窺わせます。また、武蔵における最終段階の大型古墳のひとつであり、大型古墳築造の終焉を考える上でも重要といえます。



◇ 山王塚古墳が造られた時代

古墳時代（3 世紀中頃～6 世紀）は、ヤマト王権が本州～九州を勢力下に組み入れていく過程と読み取れます。有力豪族が推挙して大王を擁立していたヤマト王権の時代から、飛鳥時代（7 世紀）には次第に大王に権力を集中させた政権へと変化し、奈良時代（8 世紀）には天皇を中心とした律令国家（法律に基づき天皇が中央の官僚機構を通じて地方を統治した古代国家）が完成しました。

山王塚古墳が造られた 7 世紀といえば、中国の巨大な統一帝国・唐の成立（611 年）や、白村江の戦い（663 年）で日本は唐・新羅連合軍に敗れ侵略の危機を抱えるなど対外政策に不安を抱えており、国力の強化が大きな課題となった時代でした。

一方で国内に目を向けると、聖徳太子（厩戸皇子^{うまやどのおおじ}）と蘇我馬子^{そがのうまこ}が補佐した推古天皇^{すいこ}の治世^{ちせい}に始まり、力を増した蘇我氏の排除と天皇親政に向けた改革が始まった大化の改新^{いっし}（乙巳の変；645年）、天皇の座を巡って大海人皇子^{おおあまのおおじ}（のちの天武天皇^{てんむ}）と大友皇子^{おおとものおうじ}の間に勃発した古代史上最大の内乱・壬申の乱^{じんしん}（672年）、藤原京遷都（694年）を経て、奈良時代と移っていきます。

強力な中央集権国家を造るためには、地方をいかに統治するかが鍵となります。そのため、7世紀後半には、東海道・東山道といった「五畿七道」^{ごきしちどう}（行政区分）の制定と「武蔵国」などの国の設置、中央と地方を結ぶ古代道路（駅路^{えきろ}）の敷設、税制整備のための戸籍の作成（庚午年籍^{こうごねんじやく}）や公地公民^{こうちこうみん}といったその後の日本の基盤となる様な諸制度が整えられ、また国号「日本」や「天皇」の称号も登場します。



古代の国名と七道駅路

(川越市立博物館第41回企画展展示図録『古代入間郡の役所と道』より転載)

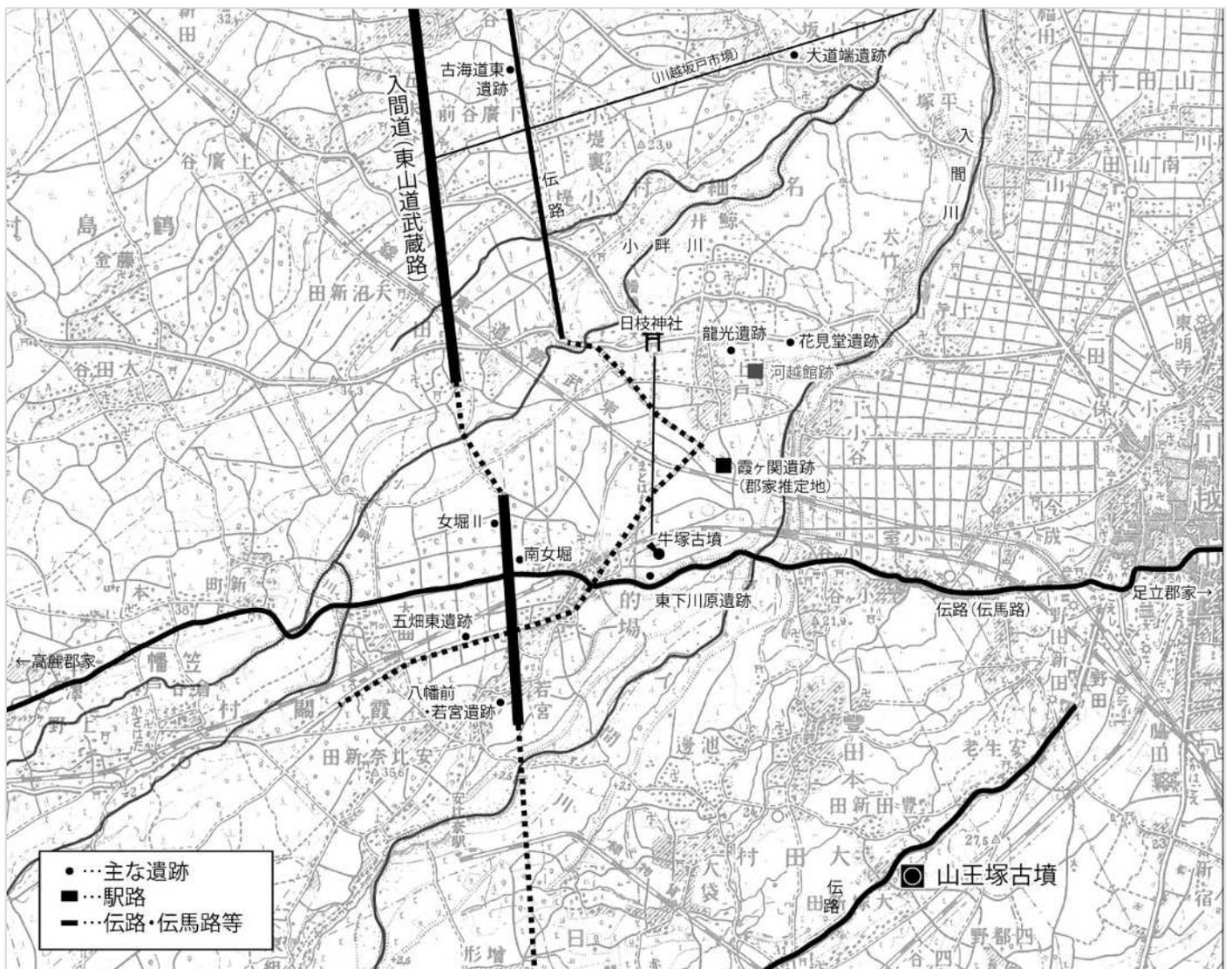


古代道路・東山道武蔵路

とうさんどうむさしみち

川越地域も含まれる武蔵国は 771 年に東海道へ所管替えされるまでは「東山道」に属していました。中央と東国を結ぶ駅路「東山道」の本道は現在の滋賀県→岐阜県→長野県→群馬県→栃木県を通り、東北地方へと続きますが、武蔵国の役所（現在の東京都府中市）までは本道から南へ延びる枝道「東山道武蔵路」でつながっており、このルートは川越市域も通過していました。これら駅路は全国規模の視点で造られましたが、実際に工事を行い維持管理していたのは地方の有力首長です。

東山道武蔵路の完成は山王塚古墳築造のすぐ後の出来事であるため、山王塚古墳の被葬者は、駅路の敷設をおこなった人物であると推測されます。



山王塚古墳と東山道武蔵路

